



HAMAGUCHI YOZO

作品左: 浜口陽三 《14のさくらんぼ》 1966年
カラーメゾチント 52.3×24.4cm

Fourteen Cherries Color Mezzotint

作品右: 波多野華涯 《蘭竹図》 六曲一双屏風(部分)

浜口陽三と波多野華涯 — 匂い立つ黒と黒 —

ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
25周年記念 I 夏の企画展



HATANO KAGAI

匂い立つ黒と黒

銅版画と墨の競演 ———

静かな闇に浮かぶさくらんぼ。浜口陽三(1909-2000)の銅版画は、光を含んだ闇のグラデーションが印象的です。本展ではその銅版画と共に、陽三の父と交流のあった南画家・波多野華涯(1863-1944)の「蘭竹図銀屏風」を展示します。清流と切り立つ岩に竹と春蘭をあしらった銀屏風は、黒の濃淡によって、立ち上る霧や蘭の芳香まで表現され、臨場感をもって迫ってきます。浜口作品における墨絵の影響は、これまで幾度となく評論家に指摘されてきました。今回は画風を超えたさらなる繋がりを求めて、永遠の時空で響き合う二人の画家の作品、とりわけ黒の諧調をご覧ください。

展覧会概要

会期 2024.6.11(火)→8.18(日)
休館日 月曜日(ただし7/15、8/12は開館)、7/16(火)、8/13(火)
展覧会タイトル ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 開館25周年記念I 夏の企画展
浜口陽三と波多野華涯 — 匂い立つ黒と黒 —
開館時間 平日11:00~17:00、土日祝10:00~/最終入館16:30
第1・第3金曜日はナイトミュージアム(~20:00)
入館料 大人 600円 大学・高校生 400円 中学生以下無料
主催・会場 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7
Tel_03-3665-0251 Fax_03-3665-0257
Mail_musee@yamasa.com
アクセス_東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば
東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分
首都高速箱崎IC[浜町出口]または[清洲橋出口]T-CAT駐車場前
監修 宮崎 法子 (実践女子大学文学部美学美術史学科名誉教授)
協力 小田切 マリ (華語文庫代表)

<https://www.yamasa.com/musee/>



波多野華涯 《蘭竹図》 六曲一双屏風 大正13年/1924年
紙本銀地墨画 各168.0×374.4cm
みやじまの宿 岩惣 所蔵 左:右隻 蘭図 右:左隻 竹図

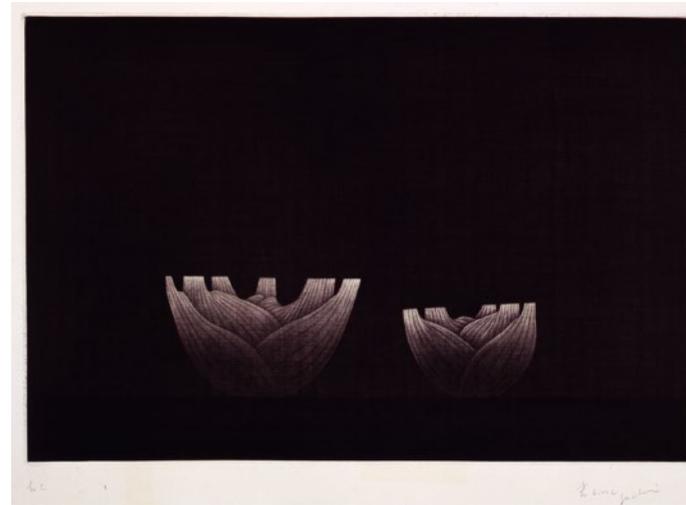
ごあいさつ

世界的銅版画家浜口陽三氏の美術館創設25周年を記念して、この度、浜口陽三氏の作品と、私の曾祖母波多野華涯の南画作品「蘭竹図六曲一双銀屏風」を取合せる企画が実現致しました。実はこの屏風は、昨年5月、G7広島サミットの宮島会合において、各国首脳達の背後に飾られたものです。今年は奇しくもこの屏風が描かれてから100年目の年にあたります。この度、所蔵者岩惣旅館の御協力をいただき、初めて東京にやってきました。浜口陽三氏の銅版画との出会いが、新たな世界を生み出すかもしれません。一期一会のこの機会に、より多くの皆様に御清鑑いただけますよう祈念致しております。

華涯文庫代表 小田切マリ

波多野華涯 について

波多野華涯(1863-1944)は、大阪に生まれ、東京に出て跡見花蹊や瀧和亭、のちに地元で森琴石に学んだ後、1917年に岡山に住まいを定め、南画家として生き抜いた女性です。浜口陽三の父、第十代濱口儀兵衛の後半生の南画の師でもありました。構図やモチーフのとりあわせ、配色など、華涯は南画の伝統を守りつつも、新鮮な感性を盛り込み、当世の南画とも言える力強い作品を残しました。昨年は実践女子大学香雪記念資料館にて展覧会が開かれ、この夏には岡山県立美術館で本格的な回顧展が予定されています。



浜口陽三と南画

浜口陽三は、40歳を過ぎてから本格的に銅版画に取り組み、独自の作風を大成させました。東京芸術大学を中退し、銅版画家に至るまで、陽三は自分なりの芸術を探求しつづけ、油彩、水彩、彫塑など、様々な制作を手がけています。陽三が試みたのは、西洋の芸術ではありません。浜口陽三の父、第十代濱口儀兵衛は、南画の収集家として知られ、自身も小室翠雲について南画を描きました。南画は、当時の名士たちの多くが身につけた共通の教養であり趣味でした。浜口陽三も南画に親しんで育ち、画業の転機に際した30代の一時期には墨絵を習いました。

Event ギャラリートーク

関連イベント

宮崎 法子 (実践女子大学文学部美学美術史学科名誉教授)

6月29日(土)14:00～ 入館料のみ 時間にお集まりください。

その他のイベント情報はHPをご覧ください。

浜口陽三作品 左より 《西瓜》 1981年 カラーメゾチント 23.3×54.1cm
Watermelon Color Mezzotint
《ういぎょう》 1958年 メゾチント 29.3×44.0cm
Fennel Mezzotint
《パトリックのさくらんぼ》 1980年 カラーメゾチント 7.6×7.6cm
Patrick's Cherry Color Mezzotint

この屏風は美術館では初公開、東京では初めてのお披露目です。
知られざる女性南画家の迫力ある屏風と、
奥深い浜口陽三の銅版画の取り合わせをぜひご取材下さい。

プレスリリース問合せ先

メール musee@yamasa.com

TEL 03-3665-0251 FAX 03-3665-0257 (広報担当:下澤)